鮪漁業　第五十八号　昭和三十四年五月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

#58

P. O. F. I. LIBRARY
JUN 16 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE

June 1958 operations

鮪漁業

TUNA FISHING

—— 縄染作業（三崎港岸壁）——

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

鮪　漁　業　研　究　会

No. 58, 1959

May

倉敷
ビニロン
クレモナ
万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2(第一生命ビル)
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

光電の方探

Koden のロラン

株式會社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284
電話白金(44)代表1131〜7番

Koden Electronics Co. Ltd.

目　次

鮪漁船紹介　若潮丸　第1全功丸

鮪漁場図　（昭和33年6月操業）

1958年6月に於ける鮪漁場の漁況と海況（依託調査船80隻の資料による）
(Fishing and Sea Conditon of Tuna Fishing Grounds in June 1958)……………… 1

1. 調査の概要 …… 1
2. 漁況の概要 …… 1
3. 各海区の漁況と海況 …… 2

A．赤道以南140°W以東の漁場………2
B．赤道以北180°Wの漁場……………3
C．赤道以南180—140°Wの漁場 …… 3
D．北部太平洋漁場……………………4
E．旧南洋庁沿海漁場…………………4
F．ソロモン以南漁場…………………5
G．西太平洋漁場………………………6
H．東部印度洋漁場……………………6
I．中西部印度洋漁場…………………7
J．大西洋漁場…………………………7

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和33年6月操業分）別表1 …… 9

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和33年6月操業分）別表2 ……11

マグロ漁況概況予報（昭和34年6月）…… 神奈川県水試遠洋資源係 ………15

鮪類標識放流について………8

中南米西方熱帯海域におけるカツオ、マグロ漁場の管轄と漁況
鶴田三郎………… 17

マグロ研究報告の紹介 No.1 ……伊藤順男・中込淳………… 21

業界メモ…… 22

—表紙写真　三崎無線通信士協会写真部提供—

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736—7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL.三浦2851

施工船名
第1全功丸
永隆丸
第11福長丸
第3加喜丸
第2清勝丸
みやざき丸
（其の他約六百隻）

若　潮　丸

船主	北海道　厚岸高等学校
造船所	株式会社　三保造船所
主要寸法	長29.00m×幅6.00m×深2.90m
総屯数	153.02屯
魚艙容積	49.2m³
燃料油艙	44.84m³
速力	最大　10.47節
主機	デーゼル 320IP（新潟鉄工）　1基
補機	デーゼル 52IP，22IP（ヤンマー）　各1基
無線	150W，50W　各1基
冷凍装置	フレオン圧縮中速竪型（三菱電機）　1基
レーダー，方探(光電)，音測，バッチサモメーター其の他	各1式
竣工	昭和32年12月20日

漁船用中短波無線送受信装置
漁船用中短波無線電話装置
製作工事販売保守一式

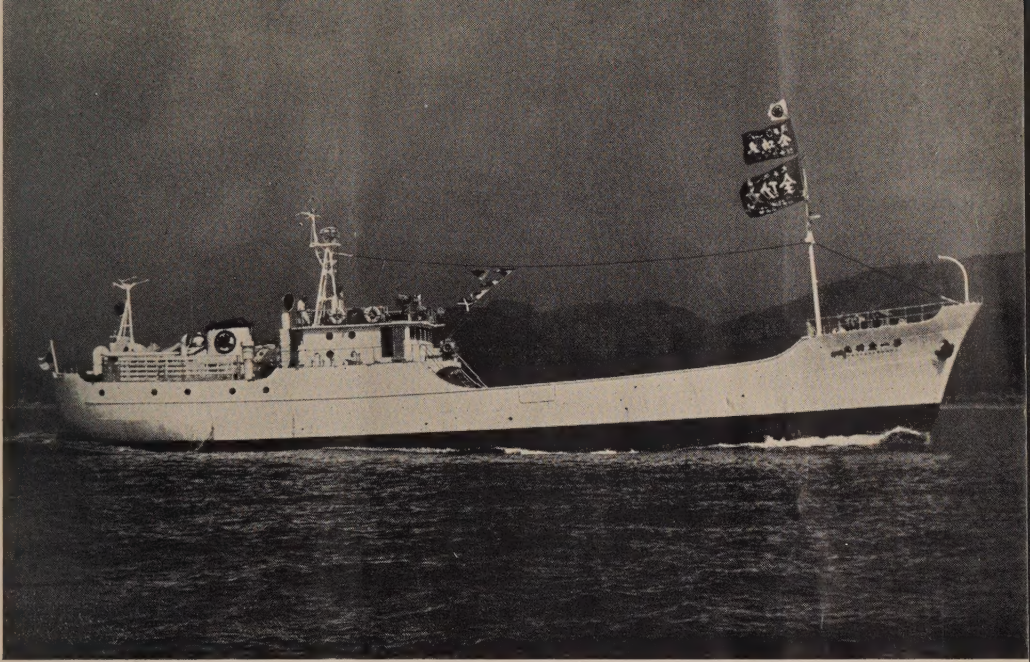
合資会社　三崎無線電

本社．営業所　三浦市三崎町仲崎187
工　　場　三浦市三崎町六合原660
八戸出張所　青森県八戸市鮫町住吉8

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　三保造船所

本　社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話　千代田（27）5522．6775．9761番



第 1 全 功 丸

船 主	奥津水産株式会社（三浦市）
造船所	株式会社 金指造船所
主要寸法	長40.63m×幅7.50m×深3.70m
総屯数	309.54屯
魚艙容積	338m³
燃料油艙	173.9m³
速 力	最大 12.08節
主 機	デーゼル650IP（赤阪鉄工） 1基
補 機	デーゼル105IP(赤阪)90IP(ヤンマー) 各1基
無 線	200W，100W（三崎電機） 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式冷凍機 70IP，40IP各1基
レーダー，M.C.P.(東京計器)，方探(光電)，音測(産研)	其の他 各1式
竣 工	昭和33年8月4日

機工業所

話（三浦）2543・3431番
話（三浦）2960番

装備船名

第 1 全 功 丸
第 12 福 生 丸
第 32 大 黒 丸
第 18 光 洋 丸
第 12 全 功 丸
第 30 振 興 丸
其 の 他

各種漁船用デイーゼル機関は定評ある
50馬力～5000馬力

株式会社 赤阪鉄工所

本 社 東京都中央区銀座一ノ三(千成屋ビル)電話京橋（56）4902～3
北海道出張所 札幌市北四条西六丁目（北洋ビル） 電 話（3）4507
大阪出張所 大阪市東区北浜四ノ三八 電話北浜（23）4790
工 場 静岡県焼津市中港町五九四 電話（焼津）2121～5

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010―19　電話　清水(2)4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2)5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851

緑星社のSV6型ラジオブイ
用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕鯨・底曳トロール
漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　緑星社

代表取締役　吉田内次

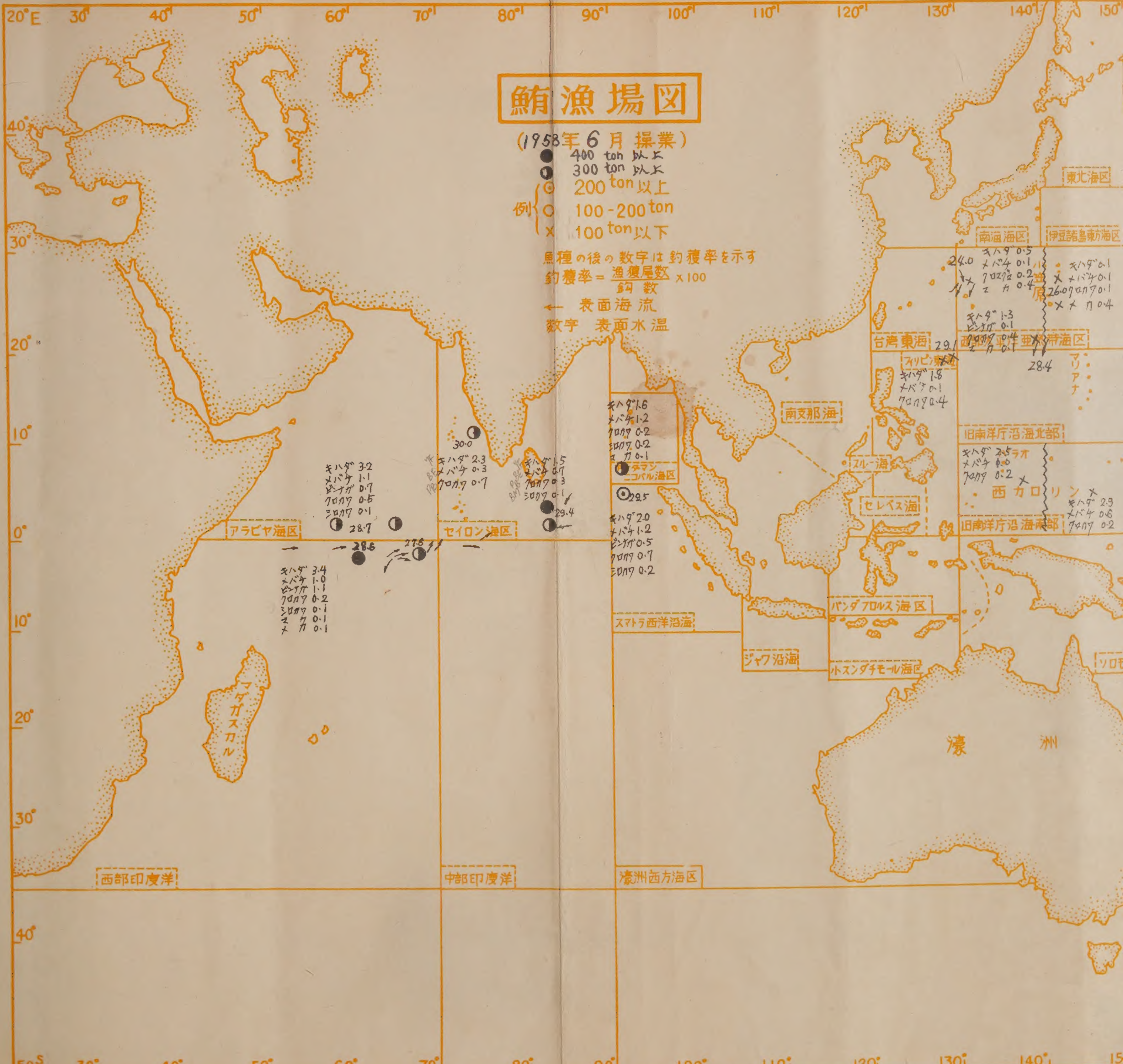
研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）
電話（54）2371
営業所　東京都中央区小田原町2の11　電話（54）7679番
函館出張所　函館市根崎町140

営業品目

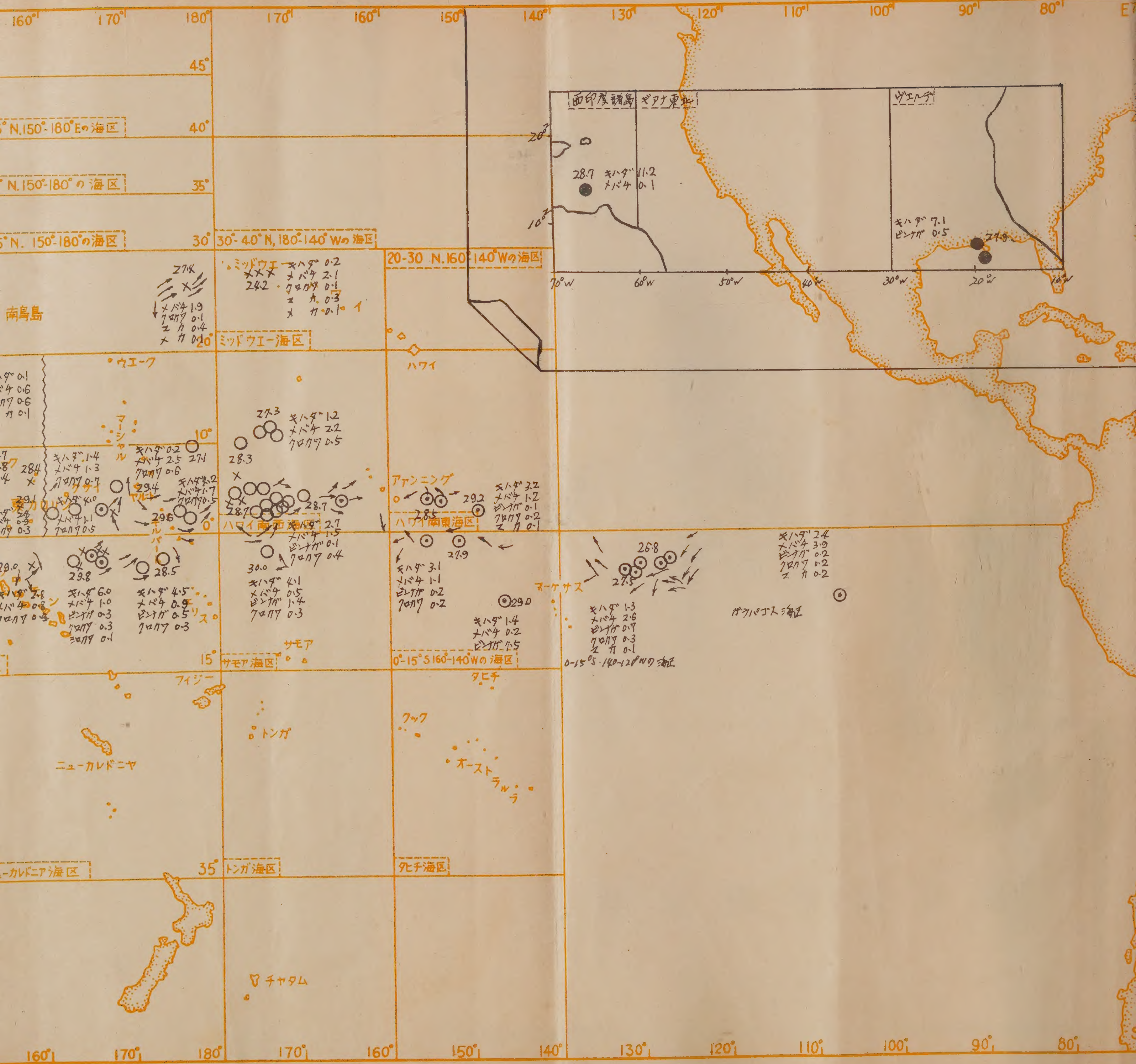
商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（712）2525・2526・3314番



鮪漁場図
(1958年6月操業)
400 ton 以上
300 ton 以上
200 ton 以上
100-200 ton
100 ton 以下
例
魚種の後の数字は釣穫率を示す
釣穫率 = 漁獲尾数 / 鈎数 x 100
← 表面海流
数字 表面水温
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
台湾東海
フィリピン東
マリアナ
南支那海
旧南洋庁沿海北部
スルー海
セレベス海
西カロリン
旧南洋庁沿海南部
アンダマン ニコバル海区
アラビヤ海区
セイロン海区
バンダフロレス海区
スマトラ西洋沿海
ジャワ沿海
小スンダチモール海区
濠洲
マダガスカル
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
20°E
30°
40°
50°
60°
70°
80°
90°
100°
110°
120°
130°
140°
150°
40°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°S



N.150°-180°Eの海区
N.150°-180°の海区
N. 150°-180°の海区
30°-40°N, 180°-140°Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー
ミッドウエー海区
南鳥島
ウエーク
マーシャル
ハワイ
アブニング
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
マーケサス
ガラパゴス海区
0°-15°S 160-140°Wの海区
0-15°S-140-120°Wの海区
サモア
サモア海区
フィジー
トンガ
トンガ海区
タヒチ
タヒチ海区
クック
オーストラル
ニューカレドニヤ
ーカレドニア海区
チャタム
西印度諸島
ギアナ東北
ヴエルデ
キハダ 11.2
メバチ 0.1
キハダ 7.1
ビンナガ 0.5
キハダ 1.2
メバチ 2.2
クロカワ 0.5
キハダ 3.1
メバチ 1.1
ビンナガ 0.2
クロカワ 0.2
キハダ 1.4
メバチ 0.2
ビンナガ 0.5
キハダ 1.3
メバチ 2.6
ビンナガ 0.7
クロカワ 0.3
マ カ 0.1
キハダ 2.4
メバチ 3.9
ビンナガ 0.2
クロカワ 0.2
マ カ 0.2
キハダ 4.1
メバチ 0.5
ビンナガ 1.4
クロカワ 0.3
キハダ 2.7
メバチ 1.5
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
キハダ 4.5
メバチ 0.9
ビンナガ 0.5
クロカワ 0.3
キハダ 6.0
メバチ 1.0
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
45°
40°
35°
30°
20°
10°
0°
15°
160°
170°
180°
150°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
80°
70°W
60°W
50°W
40°W
30°W
20°W
10°W

1958年・6月に於ける鮪漁場の漁況と海況

(依託調査船80隻の資料に依る)

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in June 1958

(By the data collected from the 80 appointed boats)

1 調 査 の 概 要

1958年6月における鮪延縄漁船船数は、5月に比較して激減し80となり、そのうち三崎43，東京33，焼津4で、体長測定実施船数は18，調査海区数は22であつた。

2 漁 況 の 概 要

(キ　ハ　ダ)

ガラパゴス海区は好漁となり、0—15°S, 140—120°W の海区は好漁期、ハワイ南東海区 5°N以南は、0—15°S, 160—140°W の海区北部とともに高率、ハワイ南西海区は5°N以北以南とも好漁、サモア海区北部も好漁期で極めて高く、南洋南部各海域およびソロモン北部においても好漁がみられている。アンダマン・ニコバル海区南部とスマトラ西岸沿海北部は、好漁後期でやや好漁、セイロン海区では、あまり好漁とならぬまま終漁する模様で、アラビア海区南部は、西部印度洋海区北部と同様に好漁、大西洋漁場では、ヴエルデ海区南部と西印度諸島南東部のカリブ海東部で高率であつた

(メ　バ　チ)

ガラパゴス海区および0—15°S, 140—120°Wの海区においては好漁、ミッドウエー海区も好漁であるが、ハワイ南東海区 5°N以南はやや好漁、南西海区 5°N以北は好漁後期に入り、南西海区 5°N以南も好漁が続きつつある。0—15°S, 160—140°Wの海区では北部が好漁、サモア海区北部は低く、西部太平洋では170°E—180°の海域でやや好漁、南洋南部各海域も好漁で、ソロモン海区北部も同様である。アンダマン・ニコバル海区南部では不漁、スマトラ西岸沿海北部も不漁で、セイロン海区、アラビア海区も低く、西部印度洋海区はやや好漁である。大西洋では、ヴエルデ、西印度諸島の両海区ともに不漁である。

(ビ　ン　ナ　ガ)

0—15°S, 160—140°W の海区では、南東部のマーケサス西方で極めて好漁、サモア海区北部では4月から上昇している。スマトラ西岸沿海北部のビンナガは低率、アラビア海区南部はこの海区としてはやや好率、西部印度洋北部はやや好漁であつた。

(ク　ロ　カ　ワ)

ガラパゴス海区においては低率となり、0—15°S, 140—120°W の海区も同様、ハワ

イ南西海区5°N以北および以南の海域では好漁前期に入り、0—15°S, 160—140°Wの海区北部とサモア海区では低率、西部太平洋130—140°Wの海区南東部、南洋北部150—160°Eの海域南部および南洋南部の東方海域は、それぞれ好漁期となりつつある。ソロモン海区北部も好漁である。アンダマン・ニコバル海区は一昨年までの好漁が得られず低調である。スマトラ西岸沿海北部は好漁となつた。セイロン海区は西北部が好漁、アラビア海区南部は低く、西部印度洋海区北部も低率である。

（マ　カ　ジ　キ）

ガラパゴス海区でやや漁獲があり、ミッドウエー海区は好漁となり、西部太平洋の170°E—180°の海域は極めて好漁、同海区130—140°Eの北西部も好漁が得られた。南洋北部150—160°Eの海域では、5月の高率から激減している。

3　各海区の漁況と海況

A. 赤道以南140°W以東の漁場

（ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区）

ガラパゴス海区の南部中央の1隻、0—15°S, 140—120°Wの海区北部の5隻、計6隻をこの漁場で調査した。海流については漁場圖参照のこと。

（キ　ハ　ダ）

ガラパゴス海区では低率期と思はれるが、海区南部中央で4月の低率から急激に上昇して昨年10, 11月の高率に等しくなり、0—15°S, 140—120°Wの海区では好漁後期でやや低く1.33となつた。

ガラパゴス海区における体長調査尾数は少数であつたが、魚体はいづれも大型で151cm以上、0—15°S, 140—120°Wの海区では、121—130cmにモードがうつり、従来に比して小型化の傾向を示し、西方海区と同様の体長組成であつた。

（メ　バ　チ）

両海区とも好漁で、ガラパゴス海区では、3月以来同様の高率が続き、0—15°S, 140—120°Wの海区では、3, 4月の高率から5月にやや低減したが、6月は2.62と恢復した。当分好漁が続くであろう。

魚体は、ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区においてそれぞれ大型、いづれも161—170cmに組成の山がみられた。マーケサス附近東方海域では、50—55kgの小型が多い。（30振興丸 石渡喜久司 漁撈長報告）

（ビ　ン　ナ　ガ）

この漁場における延縄漁船によるビンナガの漁獲は低調であり、ガラパゴス海区では、昨年12月から4月まで0.3—0.4の率が続いたが、6月は0.18となり、0—15°S, 140—120°Wの海区では、不規則的な低率が続いていたが、6月にはやや増加して0.67を示している。10°S, 139°W附近のマーケサス近海では、15kg程度のものが多く魚体が小さい。

（クロカワ、マカジキ）

この漁場のクロカワは低率期に入り、ガラパゴス海区においては0.18と低下、0—1

5°S, 140°W以東の海区も0.25を示し、しばらくは低率が続くであろう。

マカジキは、ガラパゴス海区南部中央でやや高率0.16, 4月と同様の率である。

B. 赤道以北180—140°Wの漁場

（ミッドウエー海区、ハワイ南東海区5°N以南、

ハワイ南西海区5°N以北、ハワイ南西海区5°N以南）

この漁場における6月の調査船は総数25隻、そのうちハワイ南東海区5°N以南中部から西部で3隻、ミッドウエー海区北西部のミッドウエー島附近で3隻、ハワイ南西海区5°N以北の南西部で5隻、同海区5°N以南では14隻が密集している。

ミッドウエー海区については、体長組成調査を実施できなかつた。

（キ　ハ　ダ）

ハワイ南東海区5°N以南では極めて好漁、ミッドウエーでは周年低く、ハワイ南西海区も好漁期であり、5°N以北は1.23と好漁盛期、5°N以南は好漁後期で2.71を示している。

体長組成をみると、ハワイ南西5°N以南では、131—140cmに山があつて大型であり4, 5月よりさらに大きくなつている。

（メ　バ　チ）

ミッドウエー海区のメバチは、冬の好漁期を過ぎて一旦低率となつたが、5月から再び高率となり6月は2.14, ハワイ南東海区5°N以南は1.14とやや好漁、南西海区5°N以北は好漁後期であるが2.24とまだ好漁、5°N以南の海域は1.49で、5月と同様にこの海区としては好漁が続いている。

（クロカワおよびマカジキ）

クロカワは、ハワイ南東海区5°N以南では低率、南西海区5°N以北は好漁前期で0.49を示し、高率となり始めた。南西海区5°N以南も好漁期に入り0.40となつた。

マカジキはミッドウエー海区で好漁期入り0.32と高くなつている。

体長組成をみると、クロカワは、ハワイ南東海区5°N以南では少数の小型魚のみの調査に終り、南西海区では、同じく5°N以南で従来の傾向に復して、161—170cmと200—210cmとに山があり130cm以下から260cmまで広く分布している。

C. 赤道以南180—140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、サモア海区）

5月に続いて両海区でそれぞれ3隻、1隻、計4隻を調査した。調査船の操業海域は5月と同様である。

（キ　ハ　ダ）

0—15°S, 160—140°Wの海区では、5月と同様に海区の南北で漁況に差がみられ、漁場圖に示す如く、北部の赤道附近は3.13, マーケサス西方海域は1.35, ともに5月より急増している。サモア海区のキハダも増加して、赤道南方で4.14と好漁盛期である。

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるキハダは、他海区に比較して大型、体長組成は5月と同様であつて、モード（組成の山）にも変化はない。

（メ　バ　チ）

0—15°S, 160—140°Wの海区では、メバチにおいても海域による漁況の差がみられ赤道附近は1.05, マーケサス西方は0.22で、5月に比較して減少している。サモア海区でも釣獲率の減少がみられ、赤道南方で0.48となつた。

0—15°S, 160—140°Wの海区では、121—130cmおよび161—170°cmにモードがみられ、3月にくらべて小型のものが減少している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガは、0—15°S, 160—140°Wの海区南部で5月と同じく7.54の高率、北部は0.16の低率であつた。サモア海区北部海域では、釣獲率上昇の傾向をみせて1.40となつている。

（ク　ロ　カ　ワ）

0—15°S, 160—140°Wの海区北部では低率0.19となり、マーケサス西方では漁獲皆無であつた。サモア海区北部では、5月とほぼ同率0.28で、この海区としてはやや低い。

体長組成をみると、0—15°S, 160—140°Wの海区においては調査尾数が少かつたが171—180cmに第一のモードがみられ、比較的小型のものが多い。

D. 北部太平洋漁場

（西部太平洋170°E以東および以西）

6月のこの漁場では、西部太平洋亜熱帯海区における5隻を調査した。そのうち、1隻は170°E—180°の海域の北東部で、また、2隻は140—150°Eの小笠原および硫黄島近海、1隻は130°—140°Eの海域北西部、他の1隻は同海域南東部で操業している。

（キ　ハ　ダ）

西部太平洋東部および小笠原、硫黄島近海のキハダは不漁低率である。130—140°Eの海域では、北西部の奄美群島北方で0.50, 南東部で1.31と好漁盛期に入つた。

小笠原および硫黄島附近のキハダの体長組成は、111—120cm, 131—140cm および151—160cmにモードが見られ、小型はみられず111—140cmのものが多い。

（メバチ、クロマグロ）

海区西方では不漁、170°E—180°の海域では、ミッドウエーと同様に高率1.94となり、クロマグロは、130—140°Eの海域北西部で、5月に続き0.17と僅か漁獲されている。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは、5月にやや好漁であつた硫黄島近海で漁獲なく、130—140°Eの海域南東部で0.42の好漁が得られた。

マカジキは、170°E—180°の海域北部と130°—140°Eの海域北西部で好漁が得られている。

また、メカジキは、硫黄島近海で0.58の高率であつた。

E. 旧南洋庁沿海漁場

（南洋北部、同南部）

南洋北部では、150—160°Eの海域南西部で1隻、南部では、130—1140°Eおよび140—150°Eの海域でそれぞれ1隻、150—160°Eの海域で3隻、160—170°Eの海域で5隻170°E—180°では4隻、合計14隻が調査され、5月に比較して調査隻数は半減している

(キ　ハ　ダ)

南洋北部150—160°Eの海域南西部では0.11の低率、南部では各海域とも好漁で、漁場圖に示すように、5月と同じく特に5°N以南が高率である。

南洋北部150°E附近の体長組成は、5月と全く同様でモードにも変化なく、南部170°E以東では、モードが111—120cmにうつつて比較的小型のものが増加、南部163—150°Eでは從來の傾向と変らない。

(メ　バ　チ)

南洋北部150—160°Eでは、海域南西部の10°N線附近で0.81, 13—15°Nで0.13と低いが、5月の不漁から急激に好漁となつた。南部各海域のメバチも好漁で、漁場圖にみる如く、東方海域よりに高率で、160°E以東では5°以北が以南より高くなつている

南部170°E以東では、3月4月と同形で比較的小型であり、南部163—165°Eの調査尾数は僅かであるが、やはり同様の傾向を示している。

(ク　ロ　カ　ワ)

南洋北部150—160°Eの海域では、5月から好漁で6月も0.60と高く、南洋南部では160°E以東の東方海域が好漁となり、5°N以北が以南より高くなつている。

南洋北部150°E附近および南部170°E以東は、ともに151—160cmにモードがあり、南部160—170°Eでは141—150cmにモードがみられ、5月と同傾向にあつておおむね從来と同様、南部163—165°Eは、前二者より小型である。

F. ソロモン以南漁場

(ソロモン海区)

この漁場においては、6月もソロモン海区のみの調査にとどまり、調査船は10隻で5月に比較して半減している。5°S以南の海域における調査船はない。

(キ　ハ　ダ)

ソロモン海区北部0—5°S, のキハダは、なおも好漁を示しつつあり、165°E附近は6.01と極めて高く、170—175°Eの海域も4.47で好漁であるが、ニユーアイルランド東方の1隻は、2.80でやや低い。今後この海域は夏の不漁期となるであろう。

この海域のキハダは、121—130cmに山があつて5月よりやや大型である。

(メ　バ　チ)

この海域では、4月から増加が続いて、6月は165°E附近0.98東方および西方海域はそれぞれ0.75, 0.76でやや低率である。

体長組成は5月と同様であり、121—130cmにあるモードにも変化はない。

(ビ　ン　ナ　ガ)

0.5°S, の海域のビンナガは、本年は既に低率期で、西方海域では不漁、170—175°Eの東方海域では0.54を示し、5月よりやや低率となつている。

（クロカワ）

クロカワは、この海域としては好漁になつているが、東方、中部、西方海域とも0.3程度の率で、南洋南部5°以南より低率である。

体長組成をみると、調査尾数が少いが、5月と同形でモードにも変りなく、南部163—165°Eともおおむね同形である。

G. 西太平洋漁場

（フイリピン東海）

6月は、5月に続いて、フイリピン東海北東部の20°N, 130°E附近で2隻が調査されている。

（キハダ）

フイリピン東海北部のキハダは、4月から好漁を呈して、6月は1.83の高率であつた
体長組成は、5月とほとんど同形である。

（メバチ）

この海域のメバチは周年低率、6月も僅かに0.10を示したに過ぎない。

（クロカワ）

フイリピン東海北部の20°N線附近では、6月はクロカワの好漁期に当り、0.40の好漁が得られている。

体長組成は5月と同様で変化ない。

H. 東部印度洋漁場

（アンダマン・ニコバル海区、スマトラ西岸沿海海区）

アンダマン・ニコバル海区では南部の1隻、スマトラ西岸沿海では、スマトラ島北端西方海域の海区北部で1隻、計2隻が、6月のこの漁場における調査船で、5月から激減している。

（キハダ）

アンダマン・ニコバル海区南部では、4月、5月と続いた好漁が、6月には1.64と半減して不漁に向つた。スマトラ西岸沿海の北部でも、5月から減少して1.98となつているが、ともにまだ好漁である。

（メバチ）

アンダマン・ニコバル海区南部のメバチは、春季には、従来比較的好漁であつたが本年6月の調査船1隻は、0.16と従来みられない低率を得ている。スマトラ西岸沿海は、現在不漁期にあり、沿海北部の1隻は1.17の率で、この海区としては低率である。

（ビンナガ）

アンダマン・ニコバル海区では、ビンナガは周年極めて不漁、スマトラ西岸沿海は不漁期で、冬季まで高率は望めず、0.50と低率である。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、アンダマン・ニコバル海区南部、スマトラ西岸沿海海区北部とも好漁期であるが、アンダマン・ニコバル海区では、5月から増加しているものの、31年まで

の好漁は得られず、0.21にとどまつている。スマトラ西岸沿海北部では、5月に釣獲率の上昇がみられなかつたが、6月には0.65に達して好漁である。

アンダマン・ニコバル海区のマカジキは、春の好漁を過ぎて低率期となり、5月から0.05の低率である。

I. 中西部印度洋漁場

（セイロン海区、アラビア海区、西部印度洋海区）

中部および西部印度洋漁場における調査船も、6月に入つては減少が甚だしく、セイロン海区では、セイロン島南東方海域で2隻、ラカディヴ諸島附近で1隻、計3隻アビラア海区では、赤道附近の60°Eおよび65°Eでそれぞれ1隻、西部印度洋海区でも赤道附近60—70°Eの海域で2隻、合計7隻を調査した。漁場水温および海流については、漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

セイロン海区では、なお好漁期にある模様であり、ラカディヴ諸島附近は5月とほとんど変らないが、セイロン島南西方5°N以南では、1.48とやや低くなつている。アラビア海区のキハダも、好漁が続いているようで、5月に最も高率であつた赤道附近で3.23が得られている。西部印度洋海区北部の赤道附近は、漸次減少過程に移るようで、6月は3.44の好漁であるが、5月より低下している。

西部印度洋海区北東部赤道附近のキハダは、131—160cmのものが90%以上を占めて大型である。

（メ　バ　チ）

セイロン海区では、5月と同様に低率、セイロン島南西方で0.66，ラカディヴ諸島附近は0.31とやや高い。アラビア海区においては不漁となり、西部印度洋海区のメバチは好漁期で、特に60°E附近の1隻は2.60の高率であつた。

（ビ　ン　ナ　ガ）

セイロン海区のビンナガは、4月、5月に続いて不漁、アラビア海区赤道附近においては、5月の低率から6月は0.68と漸く初夏の増加をみた。西部印度洋海区北東部では5月よりやや減じて1.11であるが、経度別にみると、70°E附近は0.08，60°E附近が1.34と比較的高率である。

（ク　ロ　カ　ワ）

セイロン海区のクロカワは、ラカディヴ諸島附近で5月と同様に釣獲率0.69の漁獲が得られ、セイロン島南西方では0.31を示したに過ぎない。アラビア海区の赤道北側では、0.45で5月と同率、この海区としては低い。55—60°Eは0.67を示し、60—70°Eより好漁である。西部印度洋海区の赤道南側でも、低率0.23であつた。

西部印度洋北東部赤道附近のクロカワは、調査尾数が僅かであつたが、小型魚が多く5月のアラビア海区と同様の組成を示しているようである。

J. 大西洋漁場

（ヴエルデ海区、西印度諸島海区）

大西洋漁場では、ヴエルデ海区で5月の調査海域よりやや南方で2隻、また、西部印度諸島海区のヴエネズエラ北方海域で1隻、合計3隻を調査したにとどまる。体長組成、海流に関する資料は得られなかつた。

（キ　ハ　ダ）

ヴエルデ海区における2隻は、海区南東部で近接して操業していて、キハダは5月よりやや低下し、7.08を示した。この附近は、北赤道流と南赤道流の作る収れん線の北側に当り、続いて好漁が期待される。西印度諸島海区の1隻は、11.23を示して極めて好漁、このカリブ海東部海域ではキハダが最も多く、4—5月頃最盛期となつて6月以降は次第に低下する模様である。

（メ　バ　チ）

メバチの漁況は一般に低率、ヴエルデ海区は5月よりさらに不漁となつて漁獲なく西印度諸島海区カリブ海東部でも0.14を示しているに過ぎない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガも好漁ではないが、5月に漁獲皆無であつたヴエルデ海区南東部で0.54,西印度諸島海区カリブ海東部では、冬に好漁がみられる模様であり、6月は不漁で0.04を示しているに過ぎない。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワを始めカジキ類はいづれも不漁である。

この資料は、南海区水研、神奈川県水試が依託調査船80隻より編収し、これを統計的に分離したものである。

鮪類標識放流について

◇ 昭和34年2月1日から4月30日までの間に放流実施の報告があった船数は2隻（14尾）である.

放流実施船名及び実施の概要

船　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
房総丸	×0036～38 ×0040.	33年11月6日～ 〃 11月19日	6°～ 8°S 111°～110°W	めばち（4）
房総丸	×0181～185	34年2月25日～ 〃 3月9日	7°～ 8°S 116°～114°W	めばち（5）
船川丸	×0161. ×0163～166	33年12月18日～ 〃 12月19日	18°～ 21°S 153°～154°E	きはだ（4） びんなが（1）

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	きはだ	めばち
ガラパゴス	6— 10S 109—105W	1	1	26.0 27.4		30	12,468	49,872	1180 2.37	1965 3.94
0— 15S 140—120W	0— 7S 141—119W	5	3	26.2 28.3		133	55,406	234,274	3108 1.33	6139 2.62
ミッドウエー	26— 29N 179—171W	3	0	23.1 15.3		62	20,115	86,545	132 0.15	1853 2.14
ハワイ南東 (5°N 以南)	0— 5N 160—142W	3	1	26.3 29.0		43	17,375	79,737	2535 3.18	911 1.14
ハワイ南西 (5°N 以北)	5— 12N 180—172W	5	0	26.8 28.7		80	29,349	123,731	1517 1.23	2767 2.24
ハワイ南西 (5°N 以南)	0— 6N 180—161W	14	1	27.9 30.0		288	108,494	494,995	13424 2.71	7353 1.49
0— 15S 160—140W	0— 9S 160—146W	3	1	26.9 29.5		60	24,117	96,438	2208 2.29	635 0.66
サモア	0— 5S 178—173W	1	0	29.7 30.3	WNW W	13	4,750	21,800	902 4.14	105 0.48
西部太平洋 (170°E以東)	26— 28N 173—179E	1	0	23.3 24.7	ENE 0.5	15	5,025	20,100	4 0.02	390 1.94
西部太平洋 (170°E以西)	23— 29N 130—143E	4	1	23.3 28.6		64	17,077	73,375	376 0.51	40 0.05
南洋北部 (170°E以西)	10— 15N 149—155E	2	1	26.6 28.7		21	5,250	30,000	332 0.11	183 0.61
南洋南部 (170°E以東)	0— 10N 169—179E	4	3	26.6 30.0		69	26,100	117,760	3801 3.23	2184 1.85
南洋南部 (170°E以西)	0— 7N 137—170E	10	1	27.3 30.3		145	48,502	228,673	7114 3.11	2284 1.00
ソロモン	0— 5S 156—177E	10	2	27.0 30.5		153	55,805	272,919	12786 4.68	2139 0.98
フイリピン	18— 20N 128—130E	2	2	28.7 29.5		21	5,760	32,040	586 1.83	32 0.10
アンダマン	6— 10N 91— 95E	1	0			20	7,700	33,700	554 1.64	55 0.16
スマトラ西岸	4— 6N 90— 93E	1	0	29.3 29.6		17	6,000	24,000	475 1.93	280 1.17
セイロン	0— 12N 73— 89E	3	0	29.0 30.9	NE, NW W	31	11,981	57,305	974 1.70	319 0.56
アラビア	0— 4N 56— 70E	2	0	28.4 29.0		32	13,585	67,245	2173 3.23	735 1.09
西部印度洋	0— 4S 54— 70E	2	1	26.4 29.6	E 0.8, 1.5	44	18,313	82,657	2847 3.44	859 1.04
ヴエルデ	5— 9N 22— 17W	2	0	27.0 28.7		42	17,398	69,592	4927 7.08	
西印度諸島	13— 14N 67— 65W	1	0	28.5 28.9		7	2,821	11,284	1267 11.23	16 0.14
合計	22	80	18			1390	513,391	2,308,042	63222 2.74	31244 1.35

(昭和33年6月操業分)

(別表1)

ぐ ろ			か じ き					かつお	雑	さめ	計	備考
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
84 0.17			88 0.18	10 0.02	80 0.16	3 0.01					3410 —	
1568 0.67			574 0.25	37 0.02	145 0.06	15 0.01	7 0.00	433 0.18	334 0.14	130 0.06	12490 5.33	
12 0.01			67 0.08	2 —	275 0.32	42 0.05			6 0.01	15 0.02	2404 2.78	
48 0.06			139 0.17	19 0.02	46 0.06	17 0.02	1 0.00	246 0.31	106 0.13	867 1.09	4935 6.19	
39 0.03			608 0.49	6 —	2 —	16 0.01	10 0.01		25 0.02	170 0.14	5160 4.17	
256 0.05			1971 0.40	73 0.01	38 0.01	58 0.01	82 0.02	4 0.00	73 0.01	7 0.00	23339 4.71	
3516 3.65			99 0.10	7 0.01	7 0.01	9 0.01				270 0.28	6751 —	
305 1.40			60 0.28	4 0.02	1 0.00		5 0.02	5 0.02	1 0.00		1388 —	
			16 0.08	1 0.00	73 0.36	11 0.05			8 0.04		503 —	
27 0.04	22 0.03		115 0.16		70 0.10	247 0.34	36 0.05	1 0.00	236 0.32	558 0.76	1728 2.36	
10 0.03			181 0.60	7 0.02	24 0.08	4 0.01	23 0.08	22 0.07	222 0.74	174 0.58	1182 3.94	
			566 0.48	18 0.02	2 0.00	14 0.01	42 0.04		13 0.01		6640 —	
16 0.01	6 0.00		902 0.39	70 0.03	5 0.00	3 0.00	194 0.08	230 0.10	219 0.10	423 0.18	11466 5.01	
692 0.25			681 0.25	106 0.04	4 0.00	12 0.00	222 0.08	61 0.02	753 0.28	353 0.13	17809 6.53	
8 0.02	5 0.02		128 0.40		10 0.03	5 0.02	87 0.27	5 0.02	76 0.24	13 0.04	955 2.98	
			68 0.21	54 0.16	18 0.05	8 0.02	5 0.01			142 0.42	904 2.68	
121 0.50			155 0.65	50 0.21	9 0.04	3 0.01	21 0.09				1114 —	
12 0.02			241 0.42	58 0.10	26 0.05	23 0.04	143 0.25				1796 —	
457 0.68			302 0.45	38 0.06	24 0.04	44 0.07	44 0.07		2 0.00	63 0.09	3882 5.77	
917 1.11			191 0.23	52 0.06	60 0.07	54 0.07	22 0.03				5002 —	
378 0.54						13 0.02					5318 —	
5 0.04											1288 —	
8471 0.37	33 —		7152 0.31	612 0.03	919 0.04	601 0.03	944 0.04	1007 0.04	2074 —	3185 —	119464 —	

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和33年6月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾数
	1	ガラパゴス	6—10S 109—105W	30											1 2.2	16 34.8	13 28.3	16 34.8	46 100	1180
	2	0—15S 140—120W	0—7S 139—124W	52							6 4.8	28 22.6	32 25.8	19 15.3	13 10.5	20 16.1	6 4.8		124 100	1209
き	1	ハワイ南東 （5°N以南）	3—5N 158—154W	13							3 15.0	1 5.0	8 40.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	3 15.0		20 100	1943
	8	ハワイ南西 （5°N以南）	0—6N 177—165W	178							48 3.1	215 13.7	368 23.4	517 32.9	306 19.5	72 4.6	20 1.3	25 1.6	1571 100	8422
	1	0—15S 160—140W	0—3S 160—148W	15								1 0.5	5 2.5	28 13.8	61 30.0	85 41.9	16 7.9	7 3.4	203 100	895
	1	西部太平洋 （170°E以西）	26—28N 130—132E	15							4 6.3	18 28.1	7 10.9	16 25.0	4 6.3	12 18.7	3 4.6		64 100	64
は	1	南洋北部 （170°E以西）	13—15N 149—152E	9							15 25.4	27 45.8	7 11.9	9 15.3	1 1.7				59 100	67
	3	南洋南部 （170°E以東）	0—10N 169—179E	65						2 0.2	95 10.2	443 47.4	226 24.2	102 10.9	48 5.1	16 1.7	1 0.1	1 0.1	934 100	3732
	1	南洋南部 （170°E以西）	3—4N 163—165E	8							21 7.7	89 32.6	120 44.0	37 13.6	5 1.8	1 0.4			273 100	758
だ	2	ソロモン	1—5S 160—170E	33							48 9.0	145 27.1	184 34.4	112 20.9	38 7.1	7 1.3	1 0.2		535 100	2806
	2	フイリピン	18—20N 128—130E	21						1 0.4	2 0.8	94 36.7	90 35.2	46 18.0	11 4.3	12 4.7			256 100	586
	1	西部印度洋	0—4S 54—68E	35									3 3.8	26 32.9	24 30.4	24 30.4	2 2.5		79 100	2489

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
	1	ガラパゴス	6—10S 109—105W	30								1 1.0	2 2.0	7 7.2	17 17.5	28 28.9	16 16.5	26 26.8	97 100	1965

	2	0—15S 140—120W	0—7S 139—124W	52					1 0.6	2 1.1	5 2.8	17 9.4	17 9.4	31 17.1	29 16.0	36 19.9	19 10.5	24 13.3		181 100	2823
め	1	ハワイ南東 (5°N 以南)	3—5N 158—154W	13					1 4.0		5 20.0	5 20.0	4 16.0	7 28.0	3 12.0					25 100	1483
	7	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—6N 177—165W	148					13 1.8	66 9.1	165 22.7	198 27.2	89 12.2	91 12.5	56 7.7	26 3.4	16 2.2	7 1.0		727 100	3730
	1	0—15S 160—140W	0—3S 160—148W	15							10 7.8	19 14.7	16 12.4	13 10.1	22 17.1	24 18.6	13 10.1	12 9.3		129 100	342
ば	1	西部太平洋 (170°E以西)	26—28N 130—132E	15						1 33.3	1 33.3		1 33.3							3 100	8
	1	南洋北部 (170°E以西)	13—15N 149—152E	9				1 25.0			1 25.0		2 50.0							4 100	12
	3	南洋南部 (170°E以東)	0—15N 169—179E	65						17 5.1	79 23.6	76 22.7	54 16.1	64 19.1	29 8.7	7 2.1	6 1.8	3 0.9		335 100	1484
ち	1	南洋南部 (170°E以西)	3—4N 163—165E	8							6 15.4	14 35.9	5 12.8	8 20.5	5 12.8	1 2.6				39 100	85
	2	ソロモン	1—5S 160—170E	33					1 0.7	4 2.9	11 8.1	59 43.4	13 9.6	29 21.3	12 8.8	5 3.7	1 0.7	1 0.7		136 100	484
	1	西部印度洋	0—4S 54—63E	35							3 4.0	4 5.3	7 9.2	16 21.0	17 22.4	17 22.4	5 6.6	7 9.2		76 100	750

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上						計	漁獲尾数
び	1	西部太平洋 (170°E以西)	26—28N 130—132E	15						1 33.3	8 66.7									3 100	3
んな	1	南洋北部 (170°E以西)	13—15N 149—152E	9							1 20.0	1 20.0	3 60.0							5 100	5
が	1	フイリピン	18—20N 128—130E	13							1 14.3	2 28.6	4 57.2							7 100	7

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
	1	ガラパゴス	6—10S 109—105W	30					1 10.0		1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0		3 30.0			1 10.0	10 100	88
く	3	0—15S 140—120W	0—7N 140—121W	91	2 2.9	1 1.5	1 1.5	5 7.4	10 14.7	13 19.1	8 11.8	8 11.8	4 5.9	4 5.9	2 2.9		4 5.9	3 4.4	3 4.4	68 100	423

ろ	1	ハワイ南東 (5°N以南)	3—5N 158—154W	13	3 7.5	1 2.5	4 10.0	4 10.0	10 25.0	12 30.0	6 15.0									40 100	286
	7	ハワイ南西 (5°N以南)	0—6N 179—165W	178	3 1.1	14 5.0	35 12.6	34 12.2	50 18.0	28 10.1	18 6.5	25 9.0	29 10.4	20 7.2	8 2.9	9 3.2	3 1.1	2 0.7		278 100	1235
か	1	0—15S 160—140W	0—3S 160—148W	15			3 5.1	4 6.8	7 11.9	11 18.6	7 11.9	4 6.8	5 8.5	6 10.2	2 3.4	1 1.7	1 1.7	8 13.6		59 100	59
	1	南洋北部 (170°E以西)	13—15N 149—152E	9		5 6.3	15 18.9	25 31.6	21 26.6	6 7.6	1 1.3	1 1.3		2 2.5		1 1.3	1 1.3	1 1.3		79 100	79
	3	南洋南部 (170°E以東)	0—5N 169—179E	65	8 5.9	17 12.6	16 11.9	36 26.7	29 21.5	3 2.2	3 2.2	4 3.0	8 5.9	7 5.2	1 0.7	2 1.5	1 0.7			135 100	410
	1	南洋南部 (170°E以西)	3—4N 163—165E	8	1 2.1	4 8.3	13 27.1	11 22.9	9 18.7	4 8.3		3 6.2	2 4.2	1 2.1						48 100	87
わ	2	ソロモン	1—5S 160—170E	33	9 14.1	9 14.1	18 28.1	15 23.4	6 9.4	2 3.1	1 1.6	1 1.6	1 1.6		2 3.1					64 100	135
	2	フィリピン	18—20N 128—130E	22	1 1.1	12 12.9	27 29.0	26 28.0	7 7.5	2 2.2	1 1.1	4 4.3	3 3.2	1 1.1	5 5.4	3 3.2	1 1.1			93 100	128
	1	西部印度洋	0—4S 54—68E	35			1 2.8	5 14.3	11 31.4	2 5.7	2 5.7	3 8.6	1 2.8	4 11.4	4 11.4	1 2.8	1 2.8			35 100	150

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
し	1	ガラパゴス	6—10S 109—105W	30															1 100.0	1 100	10
	2	0—15S 140—120W	0—7S 140—121W	71			1 8.3		1 8.3			1 8.3	2 16.7		1 8.3		1 8.3	4 33.3	1 8.3	12 100	23
ろ	4	ハワイ南西 (5°N以南)	0—5N 179—169W	90				1 11.1			1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1		1 11.1	1 11.1	9 100	21
か	3	南洋南部 (170°E以東)	0—5N 169—179E	65			2 15.4	1 7.7		3 23.0	4 30.8	1 7.7	2 15.4							13 100	17
わ	1	ソロモン	1—5S 160—170E	23	1 8.3	1 8.3	4 33.3	3 25.0	1 8.3	1 8.3		1 8.3								12 100	14
	1	西部印度洋	0—4S 54—68E	35		1 7.7	1 7.7	1 7.7		1 7.7	1 7.7	2 15.4	2 15.4	3 23.1		1 7.7				13 100	43

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	2	0—15S 140—120W	0—7S 140—121W	71									1 4.3	3 13.0	6 26.1	11 47.8	2 8.7			23 100	75
	4	ハワイ南西 (5°N 以南)	0—5N 179—169W	90				1 3.1	3 9.4	4 12.5	7 21.9	5 15.6	3 9.4	5 15.6	3 9.4	1 3.1				32 100	33
	1	南洋北部 (170°E以西)	13—15N 149—152E	9				2 8.3	12 50.0	6 25.0	2 8.3	2 8.3								24 100	24
	1	ソロモン	1—5S 160—170E	23				1 100.0												1 100	1
	1	フイリピン	18—20N 128—130E	12		1 12.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5		1 12.5		1 12.5							8 100	8

魚種	測定船数	漁場	操業回数	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
めかじき	1	ハワイ南東 (5°N 以南)	3—5N 158—154W	13			1 5.6	1 5.6	3 16.7	5 27.8	4 22.2	2 11.1	1 5.6	1 5.6					18 100	36
	3	ハワイ南西 (5°N 以南)	0—5N 179—169W	72						1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1		1 11.1	1 11.1	1 11.1	9 100	26
	1	西部太平洋 (170°E以西)	26—28N 130—132E	15						3 1.000									3 100	4
	1	南洋北部 (170°E以西)	13—15N 149—152E	9							1 1.000								1 100	2
	3	南洋南部 (170°E以東)	0—5N 169—179E	65				4 36.4	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1		2 18.2				11 100	14
	1	ソロモン	1—5S 160—170E	23						2 66.7							1 33.3		3 100	3
	1	西部印度洋	0—4S 54—68E	35						1 7.7	1 7.7	7 53.8	4 30.8						13 100	53

マグロ漁況概況豫報　（昭和34年6月）

神奈川県水試　遠洋資源係

1．太平洋南東部漁場

キハダは全般的に不漁で、赤道から南緯5°迄の水帯が1.0，南緯5°以南は殆んど漁獲がありません。

メバチは、南緯2°から5°迄の水帯のみが好漁で4.0，他海域は不漁で、赤道から南緯2°迄の水帯が1.0，南緯5°から7°迄の水帯が1.5，南緯7°以南の海域は殆んど漁獲がありません。

2．太平洋北中部漁場

ミッドウエーから北緯30°線に沿つて東方にのびる海域のメバチは、不漁で1.0，同海域のマカジキは好漁となり、西方で0.3，東方で0.2になります。

3．太平洋中央部漁場

北緯5°から13°迄の、マーシヤルからパルミラを経て西経140°に至る海域のメバチは、低下途上で、マーシヤル東方とパルミラ東方が1.5，パルミラ西方が2.0の中央程度の釣獲率を呈します。

なおパラミラ東方ではキハダも増加し始め、2.5程度の釣獲率を呈します。

4．太平洋南中部漁場

キハダは全般的に好漁で、ギルバート周辺が4.0，ギルバート南方が3.5，フエニックス、エリス、トケラウ周辺からクリスマス南方にかけての海域が3.0，クリスマス東方が5.0，マニヒキ周辺からマーケサスにかけての海域が2.0になります。ハウランドからクリスマスにかけての海域は不漁期ですが、釣獲率は2.0になります。

ビンナガは緯度により異なり、フエニックス周辺が3.0，エリス、トケラウ周辺が4.0マニヒキからソシエテにかけての海域と、南緯22°以南が5.0で共に好漁、サモア周辺が2.0で中程度、南緯15°から22°迄の水帯は1.0で、不漁です。

5．太平洋北西部漁場

メバチとビンナガは、不漁で殆んど漁獲がなく、マカジキは、伊豆諸島東南海域から小笠原東方を経て南鳥島周辺にかけての海域が好漁で、伊豆諸島東南海域が1.3，南

鳥島周辺が0.5, メカジキは伊豆諸島東方からウラカスにかけての海域が好漁で、伊豆諸島東方海域が0.5, 小笠原、ウラカス周辺が0.2になります。

6. 太平洋中西部漁場

北緯5°から13°迄の、パラオからポナペにかけての海域のメバチは不漁で1.0, ポナペからマーシャルにかけての海域が中程度で1.5になります。

クロカワは全般的に好漁で、0.7程度になります。

7. 太平洋南西部漁場

キハダは赤道から北緯5°迄の水帯がなお好漁で3.0, 赤道以南は全般的に不漁で、赤道から南緯5°の水帯が1.0, ソロモン周辺から南緯15°線にかけての海域が0.5, さんご海南部からニューヘヴリデス、ニューカレドニアにかけての海域が1.0になります。

ビンナガは全般的に好漁で、南緯5°から22°にかけての海域が3.0, 南緯22°から33°にかけての海域が4.0になります。クロカワは低下途上で、中程度の1.5程度、シロカワとマカジキは不漁で、殆んど漁獲がありません。

8. 印度洋東部漁場

キハダはスマトラ西南方からジヤワ、小スンダ南方にかけての、南緯10°以北の水帯が好漁で、西よりが3.0, 東よりが2.0, アンダマン、ニコバル周辺は低下し始めで2.5バンダ•フロレス海と南緯10°以南は不漁で、バンダ•フロレス海と南緯10°以南の東よりが1.5, 南緯10°以南の西りと南よりが0.5になります。メバチは5月と変化なく、ジヤワ、西南方海域のみが好漁で2.0, アンダマンからニアス西方にかけての海域は殆んど漁獲がなく、ジヤワ、小スンダ南方沖合は0.3で共に不漁です。

ビンナガは、南緯10°以南が好漁で5.0, シロカワは、オーストラリアのギンバリーランド沖合が好漁で0.5, インドマグロとマカジキは不漁で、殆んど漁獲がありません

9. 印度洋中、西部漁場

キハダは、ベルガル灣とアラビア海が好漁で3.0, 赤道以南は、東経55°以西に多少残る程度で、全般的に1.0程度の不漁です。

ビンナガは好漁で、南緯10°以南が4.0, 赤道周辺でも1.0になります。

赤道以北のクロカワは好漁で、ベンガル灣が0.4, アラビア海が0.8になります。

10. 大西洋漁場

キハダは、北緯5°から10°, 西経30°から45°の海域と、カリブ海が好漁末期で7.0程度、象牙、黄金海岸沖合が停滞期で7.0程度、ブラジルのマラニヨン北方沖合とレシフエ東方沖合は、好漁初期で、7.0になります。

レシフエ南方沖合のビンナガは不漁で、1.0程度です。

中南米西方熱帯海域におけるカツオ、マグロ漁場の管轄と漁況

鶴　田　三　郎

1.　ラテンアメリカの管海権の主張

今日インド洋西部におけるマグロ漁船の出漁区域はアフリカ大陸東岸に至り，その西進の限界は終ったようであるが，太平洋におけるその限界には未到達といえども，年々東方に延びつつあって，現在は西経90度付近にまで及ぶ盛況で，間もなく米大陸に達することは時間の問題であるといえよう．真に喜ばしい発展ぶりであるが，中南米西方の熱帯海域は，米国を初め中南米諸国のカツオ，マグロの主要漁場でもあるので，将来において領海の侵犯などの不祥事件が生ずるところであり，また漁業の国際的協定なり管理が行われる可能性が生じてくるところでもあると思われる．

1952年8月，南米のチリー，ペルー，エクアドルの3国は，サンチャゴにおいての会議の結果次の宣言を協定し，1955年10月中央アメリカのコスタリカがこれに参加した．

(1)．チリー，ペルー，エクアドル3国政府は，国際海洋政策の基準として，それぞれの国の沿岸に隣接する海域において，沿岸から最短200浬までの距離に対し，各当事国の排他的主権及び管轄権を宣言する．

(2)．前記海域に対する排他的管轄権及び主権はまた，右海域の海底及び地下に対する排他的主権及び管轄権を含む．

1955年5月，チリー，ペルー，エクアドルの3国は米国の申入について協議のうえ上記宣言を再確認し，同年12月3国政府は，南太平洋海洋資源保護開発常設委員会の第3回通常会議で，200浬以内における鯨の捕獲割当を協定した．

サンチャゴ宣言以来，宣言加盟国による米国漁船の拿捕が続出し，また特に注目されたのは，ペルー海軍がパナマ国籍の捕鯨船団に発砲して，母船オリンピック・チャレンジャー（現在日本の極洋捕鯨の第2極洋丸）ほか捕鯨船4隻を拿捕し，海軍法廷において，200浬以内の操業に対し107．1万ポンド（約11億円）の罰金を判決した事件である．

2.　トルーマン宣言とラテンアメリカ諸国宣言

第二次大戦直後の1945年9月28日，トルーマン米大統領は「大陸棚の海底とその地下の天然資源に関する米国の政策」及び「公海の区域の沿岸漁業に関する米国の政策」と題する二つの宣言を発した．この両宣言を動機として海洋の分割という重大な世界的動向が発生したのである．しかしトルーマン宣言そのものは，いずれも直接に海洋の分割を行うことを宣言したものではなかった．即ち大陸棚の海底と地下天然資源が米国の管轄と管理に服することを宣言したもので，大陸棚上の水域（水産資源など）と無関係である．このトルーマン宣言を動機として，同年10月メキシコが大統領宣言を発して大陸棚と海洋に権利を主張した．続いて諸国がこれにならい，1950年末までの間にその数は十数国に達した．

第1表　海洋及び大陸棚権利主張宣言表（ラテンアメリカの分）

国名	宣言年月	宣言の形式	主張する権利の及ぶ範囲
メキシコ	1945. 10	大統領宣言	大陸棚及び海域を要求．
コスタ・リカ	—48. 9	法律	大陸棚及び深度にかかわらず距岸200浬以内の海域の国家的主権．
ガテマラ	—49. 8	〃	大陸棚（石油のみ）の国家的所有権．
ホンジュラス	—50. 3	憲法	大陸棚及び大陸棚上の海域を国家の地方的一部とみなす．
ニカラグア	〃 11	〃	大陸棚を国家の地方的一部の広がりとなす．
パナマ	—46. 12	大統領令	大陸棚上の海域の国家的管轄．
ペルー	—47. 8	〃	コスタ・リカに同じ
チリー	〃 6	大統領宣言	同上
アルゼンチン	—46. 10	大統領令	大陸棚及び大陸棚上の海域の主権．

ラテンアメリカ諸国は何れもトルーマン宣言にならうものであると主張しているが，トルーマンの意図した範囲をこえており，何れも実質的には領海の拡張，即ち海洋分割の主張をしているのである．ラテンアメリカ諸国は大陸棚に主権を主張すると同時に，その主権の効力は大陸棚上の海域までに及ぶものとし，または大陸棚よりも一層広い海域に主権を主張した．例えばアルゼンチンのように領土に近接する大陸棚の広い国は大陸棚とその上の海域とに主権を主張し，チリー，ペルーその他のように大陸棚が狭い国々は大陸棚の上の海域のみでなく，一層広い海域にわたって漁業の管轄を主張した．

漁業に関するトルーマン宣言は，米国に近接する公海の区域に関係国との合意により，漁業資源の保護区域を設定することが適当であると考えると主張したに止り，一方的に保護区域を設けることはしなかった．しかし，ラテンアメリカ諸国は一方的に公海の区域の漁業について，排他的支配を主張しているのである．チリー宣言の一部を示せば次のようである．

(1)．チリー政府はその領土である大陸及び島嶼の海岸に接続する全大陸棚にその水深にかかわらず主権を確認し，かつ宣言する．従って大陸棚の中に在りまたは下に在り，若くは既に知られまたは発見せらるべきすべての天然資源を要求する．

(2)．チリー政府はその海岸に接続する海域に，その水深にかかわらずまたその水域の上，中または下にあるあらゆる種類の天然資源を保存し保護し，維持しかつ開発するために必要な限界内において，主権を確保しかつ宣言する．しかして特にすべての漁業及び捕鯨業については，それらの資源が開発されてチリー住民に損害を与えたり，同資源がいためられ，または絶やされて同国またはアメリカ大陸の損害となるのを防ぐため，これを政府の管理下におく．

(3)．………チリー領土の海岸と海岸から200浬の距離に引かれた平行線の間のすべての海域に，保護と管理を直ちに行うことを宣言する．

3. 公海漁業は自由か否か

公海における漁業の自由は近年著しくおびやかされている．現在公海と認められている区域が，漸次漁業の独占区域に分割される傾向にあることを見逃すわけにはいかない．海洋は果して自由か分割か，1958年の海洋法に関する国際会議は，この根本問題が解決できなかった．同会議で採択された4条約は，何れも海洋の自由を否定していないが，その半面，現在公海と認められている区域における漁業の自由が否定されることを保証していない．領海及び接続水域に関する条約に，領海の幅を規定することができなかったということは，海洋自由か否かという国際法の基本的原則の問題を未解決のまま将来に持越したことを意味し，また大陸棚に対する主権及び漁業に関する特別の権利を沿岸国に与えたことは，領海またはその他の漁業独占区域の拡張を助長するものといえよう．

4. 米大陸熱帯マグロ委員会の活動

米大陸熱帯マグロ委員会設置のための条約（1949年5月31日署名，1950年3月3日発効）は，米国とコスタリカを原署名国とし，後にパナマが加盟した．東部太平洋においてマグロ類漁業，またはその餌料の漁業を行っている国は，締約国の一致の賛成によってこれに加入することができる（第5条3）．この委員会は1951年より活動を始め，マグロ類については，未だ資源保護のための取締が必要であるとは認められないが，持続的最大漁獲量をこえる漁獲が行われる場合には，いつでも適切な勧告を行うことができるよう委員会は常に調査を実施する．しかしその調査結果に基づいて東部太平洋のマグロ漁業を規制する規則を定める権限はない．委員会の主な任務は次のように，生物学的調査及びこれに基づく勧告である．

(1)．締約国が東部太平洋で漁獲するキハダマグロ，カツオ及びマグロ漁業に用いる餌料，特にアンチョベッタならびにマグロ漁船が漁獲するその他の魚類について資源量，生物学，生命測定及び生態学に関する調査を行い，またそれら魚類の生息量に及ぼす自然的要因及び人間活動の影響に関する調査を行う．

(2)．この条約に定めた魚類の生息量の常時及び過去の状態及び傾向に関する資料を収集し分析する．

(3)．この条約に定めた魚類の生息量を維持し，増加する方法及び手段に関する資料を研究し評価する．

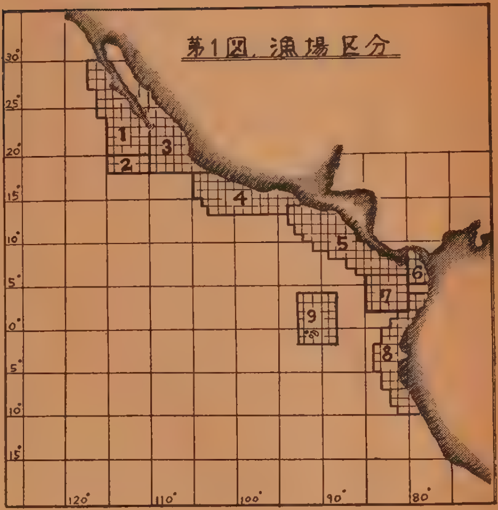
(4)．前各号の目的を達成するため，必要な漁獲その他の作業を公海または締約国の管轄下にある水域で行う．

(5)．この条約で定めた魚類の生息量を持続的最大漁獲が許される標準資源量に維持するため，締約国の共同措置を求める提案を科学的調査に基づいて随時勧告する．

(6)．この条約に定めた魚類の漁業について，漁獲高，漁船の操業に関する報告その他の資料をその漁業に従事する船舶，または人々から集める．

(7). 委員会の認定の結果に関する報告，その他の資料の刊行および頒布を行う.

前記東部太平洋の区域については明示の規定はないが，委員会が資料を集める区域は第1図の通りであるから，これがその範囲であると解してよいであろう．この大きく区分された九つの区域におけるカツオ，マグロ類に関する委員会の報告の1部を示せば第2～5表の通りである．これについては説明の要はないと思うので省略するが，本文が多少なりとも読者の参考となれば幸甚とす.



第1図. 漁場区分

第2表　キハダマグロ，カツオの4半期毎の漁獲高（屯），1952～55年の平均.

餌　釣　漁　船

4 半 期	キハダマグロ	%	カ ツ オ	%	キハダ，カツオ混合群	キハダ，カツオ不詳群	合 計	%
1（1～3月）	10,056	23.1	5,177	12.7	1,304	385	16,922	17.9
2（4～6月）	13,907	32.0	8,916	21.9	2,795	302	25,920	27.4
3（7～9月）	11,227	25.8	14,416	35.4	2,790	582	29,015	30.6
4（10～12月）	8,261	19.0	12,256	30.0	1,836	519	22,872	24.1
計	43,451		40,765		8,725	1,788	94,729	

巾　着　網　漁　船

4 半 期	キハダマグロ	%	カ ツ オ	%	キハダ，カツオ混合群	キハダ，カツオ不詳群	合 計	%
1（1～3月）	2,416	24.2	2,464	56.0	66	308	5,254	33.8
2（4～6月）	5,735	57.4	1,112	25.3	307	309	7,463	48.0
3（7～9月）	1,554	15.6	573	13.0	113	25	2,265	14.6
4（10～12月）	276	2.8	250	5.7	3	30	559	3.6
計	9,981		4,399		489	672	15,541	

第3表　餌釣漁船，巾着網漁船のキハダマグロ，カツオの加州内での水揚高（屯）.

漁具別		1952	—53	—54	—55	1952—55
餌　釣	航海日誌水揚高	94,500	87,850	108,803	85,908	377,061
	合計水揚高	108,943	104,430	118,786	92,822	424,981
	割　合（%）	86.7	84.1	91.6	92.3	88.7
巾着網	航海日誌水揚高	15,226	14,335	15,335	17,215	62,399
	合計水揚高	20,438	23,470	17,795	19,256	80,959
	割　合（%）	74.5	61.1	87.7	89.4	77.1

（注）　加州基地の餌釣漁船は約200隻，巾着網漁船は約120隻である.

第4表　加州基地の漁船によるカツオ，マグロ類の水揚高（屯）.

漁具別	年　次	受渡隻数	黒　鮪	カツオ	キハダ	ハガツオ	ブリ	計	ビンナガ
餌　釣	1956	599	—	56,074	57,032	3	41	113,150	17,499
	1957	515	—	41,636	54,189	10	—	95,835	18,825
	1958	483	26	56,245	42,362	23	10	98,666	12,633
巾着網	1956	263	6,279	3,049	19,907	3	—	29,238	
	1957	195	9,726	3,063	15,862	20	24	28,694	63
	1958	249	15,135	2,144	20,088	2,128	—	39,494	

（注）　上段餌釣によるビンナガはビンナガ専業船による水揚高を示す.
上記の他1958年は海上輸送による次の水揚がある（屯）.
餌釣漁船よりの輸送……カツオ2,628，キハダ642.
巾着網漁船よりの輸送……カツオ2,437，キハダ567.

第5表　漁場別キハダマグロの漁獲高（屯）.

4半期	年　次	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
第　1	1952	2	415	931	937	5,633	1,677	200	2,042	708
	—53	4	934	1,318	193	2,490	308	54	1,168	616
	—54	3	585	12	589	1,959	293	29	6,061	748
	—55	—	759	459	1,570	4,517	1,018	59	273	396
	平　均	2	673	680	822	3,650	824	86	2,386	617
第　2	1952	242	1,220	1,089	3,125	2,387	4,284	109	485	744
	—53	1,303	2,181	300	5,320	3,920	218	806	1,020	269
	—54	1,053	1,255	106	3,807	3,810	458	391	2,495	9
	—55	142	1,467	770	2,651	6,764	389	41	—	167
	平　均	685	1,531	566	3,726	4,220	1,337	337	1,000	297
第　3	1952	4,392	104	86	661	976	462	434	7,586	318
	—53	2,248	651	64	33	1,318	32	287	1,092	432
	—54	3,402	139	14	212	3,482	132	106	2,041	480
	—55	5,840	961	558	106	2,156	122	26	2,620	275
	平　均	3,970	464	180	253	1,983	187	213	3,335	376
第　4	1952	4,534	314	40	43	1,245	128	471	1,124	728
	—53	1,005	304	26	234	767	74	67	3,107	1,434
	—54	1,075	193	173	166	970	11	—	5,481	747
	—55	5,019	1,767	637	350	190	1	—	952	217
	平　均	2,908	644	219	198	793	54	134	2,666	782
全　期	1952	9,170	2,053	2,146	4,766	10,241	6,551	1,214	11,237	2,498
	—53	4,560	4,070	1,708	5,780	8,495	632	1,214	6,387	2,751
	—54	5,533	2,172	305	4,774	10,221	894	526	16,078	1,984
	—55	11,001	4,954	2,424	4,677	13,627	1,530	126	3,845	1,055
	平　均	7,566	3,312	1,646	4,999	10,646	2,402	770	9,387	2,072

（注）　(1) バハ・カリフォルニヤ沖，　(2) レビラ・ジゲード群島，　(3) カリフォルニヤ湾，　(4) メキシコ沿岸，　(5) 中央アメリカ，　(6) パナマ湾，　(7) マルペロ群島，　(8) グアヤキル湾沖合，　(9) ガラパゴス群島.

マグロ研究報告の紹介
No. 1

まえがき

昨今，マグロの研究は，ちちとした歩みではあるが，多くの研究者により数多く行われ，そして報告されて来た．しかし，それらの報告が漁業者の眼にふれる機会は，決して多いとは言えないと考える．

そこで，本号より，内，外国のマグロについての研究報告等について各1〜2編位ずつを，簡単に本欄にて紹介してゆくこととする．（鮪漁業研究会　伊　藤）

マカジキの漁況と魚体組成にみられる年変動

上　柳　昭　治

日本水産学会誌　19(11)，1944

1　太平洋海域のマカジキの延縄主漁場は，＊ 凡そ30°N以北の海域に秋季に現れる漁場(北部漁場)と，20〜30°Nの中緯度海域に春，夏季に現れる漁場（中部漁場），及び20°N以南の海域に冬季に出現する漁場（南部漁場）である．

2　1949，1951年の西暦奇数年には釣獲高が高く，魚体は小型（8〜10貫）のものの割合が多かったが，1950，1952年の偶数年には釣獲率が低く，魚体は大型のもの（9〜12貫）が多い割合を占めていた。

8　魚体組成からみて，中部漁場で補充群が多いと考えられる年には，北部漁場では小型の魚体が主群となり，少い年には北部漁場の魚体組成は主として大型のものにより構成されるようである．（会員　中　込）

＊ この報告は赤道以北のみを対象としている。

中部太平洋赤道付近に於けるキハダの産卵

Heeny S. H. Yuen and Fred C. June

Fishery Bulletin of the Fish and Wildlife Service, Volume 57

1　魚体が性的に成熟した時の大きさは，小さいものでは70cmぐらいのもあるが，普通は120cm以上である．

2　産卵期は，最も産卵されることの少い11〜1月も含め，1年中にわたっている．

3　産卵場は，太平洋赤道付近全般にわたっている．

4　放卵の後体内に残されて，分解されている卵を発見した．

5　卵巣資料25の88%中に，線状虫が発見されたが，卵の生産に影響する程多くの線状虫がいるようにはみえなかった．（会員　中　込）

業　界　メ　モ

1959年4月～5月

4 月10日　昭和34年度母船式マグロ漁業許可方針

水産庁は，8日，本年度の母船式マグロ漁業の許可方針を明らかにした．この方針は，年間の総漁獲量の枠を変えないなど，昨年の方針の基本を崩していないが，これまで付属船に使うことの出来なかった他種漁業との兼業船が付属船に認められることになった．

（日本水産）

4 月19日　骨質部分が緑色に変質したメバチの骨を摘出

最近，東京都中央市場で，骨質部分が緑色に変質したメバチの骨が摘出され，市場当局では，変質の原因，害の有無について東海区水研に調査を依頼したが，食品としての販売が懸念されるので，都検査場係官立会のもとに，同物品を廃棄することになった．

（水産経済）

4 月20日　インドネシアとのマグロ合弁事業

函館公海漁業（株）では，かねてからインドネシアとマグロ合弁事業を計画中であったが，いよいよ具体的段階に入った．計画によると，同社から60屯級マグロ漁船2隻を現地に派遣，ジャカルタを基地としてインド洋漁場で年間4.2航海，約6億円の水揚げを予定している．漁獲物は現地でソーセージ，フィッシュポールなどに加工販売する方針といわれ，近く同社幹部がジャカルタに出張，現地政府の意向を打診することになっている．

（三崎港報）

4 月22日　漁業技術センターをセイロンに設置

政府は，この程コロンボ計画にもとづいて，漁業技術センターをセイロンに設置を決め，10月から発足させる段取りである．一方，このほどセイロン政府では，昨年2月日本のセイロン漁業調査団の勧告書を採択し，大規模な漁業開発にのり出す方針で，このための漁業技術，資本などの援助をわが国に申し入れてきている．　（日本水産）

4 月28日　トンガ皇太子三崎を訪れる

トンガ王国の皇太子プリンス・ツンギは，さる20日頃から非公式に来日していたが，4月28日，三崎へ，遠洋漁業視察のため来日した．同氏は，日本製マグロ船による進出を計画し，新造船は100屯級2隻と決定している．　（三崎港報）

4 月30日　メバチの緑色骨質は生理的変色

東京築地魚市場で発見された緑色骨質のメバチは，国立予防衛生研究所，東京大学の調査結果では，細菌学的には害がなく，変色は，肝汁の色素と同じものが検出されているため，生理的なものとみられている．

（三崎港報）

5 月7日　12信宝丸国際航路で無警告銃撃，船内捜索される．

第12信宝丸は，マラッカ海峡のダイヤモンド岬付近で，インドネシア警備艇から銃撃され，船内捜索の後途中まで連行された．

（三崎港報）

5 月8日　母船式マグロ漁業は大洋，報国に出漁許可

大洋漁業と報国水産では，かねてから母船式マグロ漁業の許可申請を提出中だったが，水産庁は去る6日付で両社に出漁許可を通達した．　（三崎港報）

5 月8日　北海道漁業公社は仁洋丸を母船に決定

北海道漁業公社の南方母船式マグロ船団出漁は，水産庁当局の指示にもとずき，つぎの様に計画されている．即ち，母船仁洋丸（7200屯），独航船50隻（80～105屯型，うち兼業40隻，専業10隻），漁獲目標6200屯，操業期間8月中旬～12月末となっている．

（三崎港報）

本會圖書誌の分譲其の他について

◎本会發行の圖書誌を分譲致しておりますからお申込下さい。

會　　誌　「鮪 漁 業」　才6-58号（才1-5号　品切）		才6-28号100円郵送料16円 才29-58号各150円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）		
	1 部　300円　（B 5 判 150 頁）	郵送料　24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）		
	1 部　400円　（B 5 判 226 頁）	郵送料　40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）		
	1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）	
鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）		
	1 部　400円　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）	
鮪 漁 船 操 業 圖　（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）		
	1 枚　50円	郵送料　8円
鮪　漁　場　図　（32 海區割に表示したもの）		
	10 枚　100円	郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞をお願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に 会誌送料 200 円）を添えて研究会宛お申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤事務理事迄お申込下さい。

◎大變恐縮ですが昭和32年分33年分會費（一ヶ年分1,700円）未納の方は本會宛至急拂込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。 尚整理の都合もあり會費切れの向には一時會誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

◎昭和31年度版鮪類水揚地調査報告が出來上つております。殘部僅少でありますが御希望の向はお申込下さい。定價１部400円但し既刊の昭和28年. 29年. 30年度分と一括購入の場合は４冊特價 1,100円（送料共）

鮪　漁　業

1958年5月号

昭 和 34 年 5 月 10 日 印 刷
昭 和 34 年 5 月 10 日 發 行

監　　修　神奈川縣水産試驗場調査部
編集兼發行人　菅　野　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試驗場内
發行所　鮪 漁 業 研 究 会

鋼木船造修一般

500噸 船 台 三 基

起重機 10噸・5噸各一基

三崎船舶工業株式会社

本社 東京都中央区西八丁堀2の10
電話 築地 (55) 963 15
工場 神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話(三浦) 2880・2934・2343

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ 砕氷設備毎時50屯2基完備

(向ヶ崎・花暮岸壁)

凍結能力 日産 一七屯 ——— 冷蔵収容量 六〇〇屯

製氷能力 日産 五〇屯 ——— 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会(製氷冷凍工場)

会長 寺本正市

神奈川県三浦市三崎港 TEL(三浦)2609・2655番

営　業　種　目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

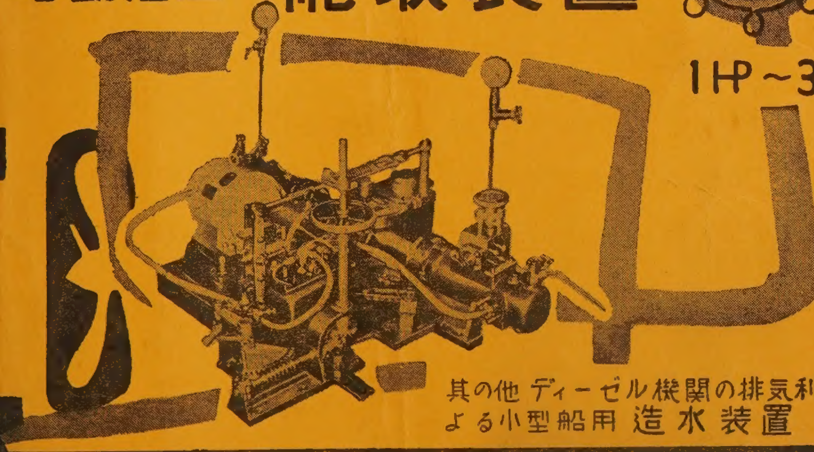
冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
} 設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　下谷（83）0996番

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

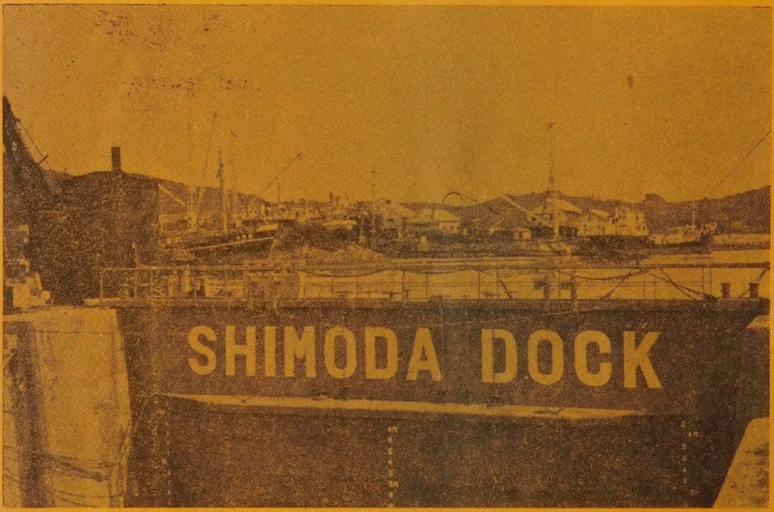
川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）(59) 6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅		深さ
		59.15 米	14.0 米		6.6 米
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4－4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121(代表)－2

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業 第五十八号 昭和三十四年五月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可